



子どもと一緒に教科書を使う

先生たちや保護者、
市民の意見に
もとづく採択を

～子どもたちによりよい教科書を手渡すために～

戦後の新しい教育が始まった時期、教科書は小中学校も含めてすべて学校ごとに採択されていました。その後、教育委員会で採択されるようになって、「学校票」方式など、学校や先生たちの意見が尊重されていました。

「新しい歴史教科書をつくる会」が編集した扶桑社の教科書が採択にかかった2001年に採択が改悪され、今のようなくみになってしまいました。

教科書を使う主人公は子どもたちです。その子どもたちの一番近いところにいる先生たちや保護者・市民の意見をもとにした採択が行われてこそ、子どもたちによりよい教科書を手渡すことができるのではないのでしょうか。

教科書の見本本を見に行っ、意見を寄せましよう

○教科書研究センター 5階第4会議室

東京都江東区千石1-9-28

5月21日(火)～6月7日(金)(土日は休み)

○採択地区ごとに展示会が開催されます。期間と場所は、広報でご覧になるか、教育委員会にお問い合わせください。

子どもと教科書全国ネット21 (CTJN21)

102-0072 東京都千代田区飯田橋2-8-9 第二望月ビル2F

TEL:03-3265-7606 FAX:03-3239-8590 E-mail:ukyokasho21@a.email.ne.jp

2024夏

中学校教科書の採択替え

真実と平和のよりよい教科書を 子どもたちに……

今年中学校教科書の採択替えの年。これから見本本の展示が始まります。採択にかかる教科書の中に、学習の教材としては子どもたちに手渡すことのできない、とんでもなく危ない！教科書が含まれています。このリーフをご覧になるとともに、実際に展示会で確かめてみてください。

子どもたちには手渡せない！ あぶない教科書



育鵬社・歴史



育鵬社・公民



自由社・歴史



自由社・公民



日本教科書・「道徳」(1～3年)



令和書籍・歴史(2点)

当初は「決定未了」
⇒遅れて「合格」。
左は市販本の表紙
です。

子どもたちに手渡したくない！

～自由社・育鵬社の教科書、4つの問題～

自由社は「新しい歴史教科書をつくる会」が、育鵬社はその会から分かれた「日本教育再生機構」が編集しています。いずれも、下記のように子どもたちに真実を伝え、平和を考える教材としてふさわしくないものです。

① 研究成果が反映されず、間違いが多くて使いにくい

育鵬社の教科書を使っている地区の先生は「歴史学の最新の成果が反映されておらず、間違いが多くて困ります」、保護者は「この教科書では受験に困ると思い、他の教科書を買って、そちらで勉強させました」と言っています。

② 戦争の真実を伝えていない



太平洋戦争に「大東亜戦争」と副題をつけ、「自存自衛の戦争」「アジアを解放するための戦争」と説明。アジアの人々の抵抗があったことや、民衆の苦難をとりあげません。沖縄戦で「逃げ場を失い、集団自決に追い込まれた」などと、犠牲になった人の責任のような書き方です。(他社は「日本軍によって」と記述)

③ 憲法を敵視し、「憲法改正」を主張

国民主権の頁に天皇に関する記述と写真が半分以上。「憲法改正」では、改正件数を単純に比較した表を載せ、「憲法改正が必要だ」と誘導しています。他社は、「憲法の大原則にかかわるような改正は許されない」と書いています。

④ 政府見解を押しつけ、考えさせようとしていない

「国民に国防の義務がない徹底した平和主義は世界的には異例です」と書き、領土問題も政府見解のみ。他社は、日本とロシアの主張を並べたり、世界の他の地域で領土問題が起こった時にどのように解決してきたかを書いたりして、子どもたちに考えさせようとしています。

「戦前の皇国史観を彷彿とさせる」 令和書籍の「国史」教科書

作家の竹田恒泰氏が編集した令和書籍の教科書は「国史」。他社とは違って縦書きで、500頁以上もあります。

冒頭に「歴代天皇の皇位継承図」を載せ、始まりは神話から。

「天皇を軸とした記述」にしたそうです。旧日本軍の零戦や戦艦大和の絵を大きく載せ、沖縄戦の学徒隊は「志願」で、「2800人以上の特攻隊員が散華^{さんげ}」などと書いています。慰安婦問題について、「日本軍が朝鮮の女性を強制連行したという事実はなく、彼女たちは報酬をもらって仕事をしていた」とし、吉田清治氏の証言の件を持ち出し、慰安婦問題全体が偽りであるかのような主張を展開しています。



真珠湾攻撃の写真を載せ、見出しに「日本の快進撃」